

2017 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ 第5戦
KYUSHU MOTORCYCLE FESTA 2017

大分県 オートポリス (1周=4.674km)

■大久保 光 JSB1000 予選:16番手 (タイム:2分10秒958) 決勝:DNF
■中村修一郎 J-GP2 予選:10番手 (タイム:2分06秒034) 決勝:16位

天候:2017年6月24日(土) 雨 コース:ウエット

6月25日(日) 雨のち曇り コース:ウエット・ドライ

観客動員数: 6,640人 (2日間合計)



090 大久保 光 Hikari Ohkubo
class : JSB1000
machine : Honda CBR1000RR

090 中村 修一郎 Shuichiro Nakamura
class : J-GP2
machine : KALEX

90 中村 龍之介 Ryunosuke Nakamura
class : ST600
machine : Honda CBR600RR

秋吉の代役に大久保光が参戦!

阿蘇の大自然の真っ直中にあるサーキット、オートポリスで全日本ロードレース選手権第5戦が行われた。昨年は、熊本地震の影響で2大会が中止となっているだけに、約2年振りの開催となった。

au & テルル・Kohara RTは、前戦のもてぎラウンドでJSB1000クラスのエース秋吉耕佑が公式予選で転倒し負傷。今回は残念ながら欠場となってしまふ。その代役として白羽の矢が立ったのが、スーパースポーツ世界選手権に参戦しており、鈴鹿8時間耐久にもau & テルル・Kohara RT から出場する大久保光だった。前週にイタリア・リミニラウンドがあったため事前テストには参加できず、ぶっつけ本番となったが、鈴鹿8耐前に au & テルル・Kohara RTのニューHonda CBR1000RR SP2に慣れてもらうことも目的の一つとなっていた。



週末に向けて天気予報は下り坂だったが、金曜日は、ドライコンディションで2セッション行われた。しかし、1回目の走行開始直後にマシントラブルが起き転倒を喫してしまう。2回目までにマシンを修復するが、トラブルが直らず1周も計測できずに初日を終わってしまう。少しでも多く周回し、JSB1000マシンでオートポリスを走ることに慣れたところだったが



計測できたのは僅か6周のみだった。一方、J-GP2クラスの中村修一郎は、前週に行われた事前テストでオートポリスを初走行。走る度にタイムを縮めて来ていたが、初日は1分55秒730と14番手となっていた。

公式予選が行われた土曜日は朝から雨と濃霧となりタイムスケジュールが大幅にずれ込んでいた。ノックアウト方式で行われる予定だったJSB1000クラスは、35分間の計時予選で行われることになったが、他のクラスの予選が次々と中止されて行った。そんな状況の中、奇跡的にJSB1000クラスの予選が行われることになった。大久保は、もちろんウエットコンディションをニューHonda CBR1000RR SP2でオートポリスを走るの初めて。慎重にペースを上げて行けど、セッション後半の方が雨足が強く、ほとんどのライダーがセッション前半にベストタイムをマークしていた。大久保は、セッション終盤にベストタイムをマークし、16番手につけた。その後に行われる予定だったJ-GP2クラスの予選も悪天候のため中止となり、決勝日朝に行われることになった。



日曜日も朝方は強い雨が降っていたが、走行が始まるころに雨は、ほとんど止んでいた。路面は乾く方向だったがウエットのままJSB1000クラスのウォームアップ、J-GP2クラスの公式予選は行われた。25分間で行われたJ-GP2クラスの予選で修一郎は、いきなりの

ウエットコンディションながらセッション最後のアタックで10番手に食い込んだ。

JSB1000クラスの決勝レースは、スタート直前に雨が降ってきたためディレイとなる。仕切り直しとなり、スタートが切られるが、大久保は3コーナーから4コーナーへ切り返したところで無念の転倒。ケガがなかったことが不幸中の幸いだがコース半周もせずに戦列を離れる結果となった。J-GP2クラスの修一郎も決勝でトラブルが出てしまい不完全燃焼の16位となった。



大久保光 コメント

「秋吉選手の代役という機会をいただきましたが、トラブルもあり、思うように走れず悔しい結果になってしまいました。ただ、鈴鹿8耐の前に、新しいCBR1000RR SP2のことや、ウエットコンディションでの走りなど、いろいろ学ぶことができたのは、収穫でした。今回のオートポリスの分も取り返せるよう、鈴鹿8耐では、いい走りができるようにしたいと思います」

中村修一郎 コメント

「予選はウエットで最後に記録したタイムで10番手。決勝はドライとなり、スタートは、これまで一番うまく決まったのですが、それでも2つほど順位を下げてしまいました。そこからペースを上げて行きたかったのですが、リアのグリップが感じられず順位を落とし完走することしかできませんでした。トラブルの原因にサイティングラップで気付かなかった自分のミスでもあるので、二度とないように気をつけます」

小原 監督 コメント

「今回は、急きょ大久保に代役で出てもらいましたが、トラブルもあり金曜日はほとんど走れず、ドライでは、ぶっつけで決勝に臨むことになってしまいました。レースをちゃんと走らせてあげたかったですね。幸いケガもなかったですし、鈴鹿8耐で、今回の分も走ってもらえるようにしたいですね。修一郎は、全日本1年目として評価するならば頑張っていると思いますが、もっとうまく成長できるようにチームとしてもバックアップして行こうと思っています」